



2011年5月2日発行

「Help another woman get pregnant」

アメリカの名門大学キャンパスにはこんなポスターが堂々とはられています。提供者は21～32歳で謝礼は5000ドル～35000ドルまで様々ということです。「子供が欲しい」という夫婦の願いはつきることがありません。年齢だけではなく病気やその他の理由からどうしても子供ができない人もいます。他人からの卵子提供がその望みをかなえてくれるというビジネスがアメリカでは浸透しているのです。提供者への謝礼が60万～300万近くになるというのですからアメリカならではの高額です。でも、提供される側では保険もきく一般的な不妊治療なので、アメリカでは定着しているのです。日本では原則として認められていませんが、姉妹や友人からの卵子提供で体外受精をしている施設もあります。精子の提供はよくて何故卵は駄目なのというのが率直な感想ですが、やはり提供者への負担が壁になっているのでしょう。問題は生まれた子供に

いつ、どんな形で告げるかということ、夫婦やその家族の問題でしょうが両親や家族が愛情をもって育てれば心配は杞憂かと。日本では血縁を重んじる民族性のためでしょうか、提供者を姉妹に希望する人が多いのですが、むしろ全く無関係の人の方が将来のトラブルは少ないかとも思います。

皆様はどうお考えでしょうか。御意見があれば不妊学級へお申込み下さい。

